

2019年度冬季セミナー実施報告

福島県社会科教育研究会 研究推進委員

- 1 日時 2020年2月22日(土)
13時30分～16時00分
- 2 会場 福島市飯坂学習センター
- 3 参加者 会員、一般参加者(小・中学校教諭、大学関係、
教育行政関係等) 計32名
- 4 内容



- (1) 全国中学校社会科教育研究大会〔京都市大会〕の参加報告
(本宮第二中学校 高橋卓史)

- ①期日 令和元年11月7日(木)～8日(金)
- ②会場 京都市勧業館「みやこめっせ」
- ③参加者 佐藤誠(清水中)、小笠原義徳(桃陵中)、高橋卓史(本宮二中)、阿部哲(附属中)
- ④授業 3分野とも2つの公開授業が行われた。(ビッグパレットのような大きな会場)

分野	単元を貫く問い
地理	<ul style="list-style-type: none"> 近畿地方の環境を維持・発展させていくために大切なことはなんだろう 京都市は、どんな未来のあり方を目指せばよいのだろう
歴史	<ul style="list-style-type: none"> なぜ秀吉が全国統一したといえるのだろう なぜ、中世から近世に変わったとされるのだろう
公民	<ul style="list-style-type: none"> 憲法の理念にもとづく政治の役割・あるべき姿とは何だろう 未来の創り手である私たちが、政治と関わっていく際に、大切なことは何だろう

⑤まとめ

- 3分野ともに「単元を貫く課題」を設定していた。
- 「深い学び」について意識した授業づくりを行っていた。
- 準備や運営には200人以上の京都市の先生方が携わっていた。
- 4年前から構想、準備に動き出していた。

(2) 講演

- ①講師 イワヤトシユキ 玉川大学客員教授 岩谷俊行 先生
- ②演題 「新学習指導要領を踏まえた社会科の授業づくり」
- ③内容



- 中学校社会科
 - ・社会科の目標、教育の目的
 - ・社会科の発足
- 学習指導要領改訂の考え方
 - ・何ができるようになるか
 - ・何を学ぶか
 - ・どのように学ぶか
- 社会科改訂の基本的な考え方
 - ・生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得
 - ・社会的な見方・考え方を働かせた思考力、判断力、表現力等の育成
 - ・主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成
- 課題追究的な学習
 - ・課題を設定する → 調べる → 考える、まとめる
 - 話し合う、発表する、討論する
 - 自分とは異なる見方・考え方、情報を得ることで、多面的・多角的な見方・考え方
で自分の考えを深める。

〈岩谷先生による講演〉

- ・学び合う関係→互恵的な学び
- 学習内容の構造化と焦点化（歴史的分野を中心に）
 - 各事項の学習を通して大きな歴史の流れを理解させるように、学習内容を構造化し、各項目で理解すべき学習の焦点を明確にしている。
 - 焦点に深くかかわる学習内容ほど、十分な時間をかけ学習方法を工夫し、より深く確かな理解が図られるようにする。 → 何を取り上げるかが重要
 - ※歴史的分野の学習内容の構造化図（中学校学習指導要領社会編 平成20年告示と平成29年告示）を比較
- 単元を通した問いの設定
 - 単元の導入で適切な資料を使い、単元の学習で何を学ぶか、どのような課題を解決するか主体的に学習に取り組ませるために、単元を通した問いを設定することが大切である。
 - 単元を通した問いを解決するために、1時間ごとに問いを設定し、見方・考え方を働かせた学習活動ができるようにする。

5 セミナーに参加して

今年度は、全中社の参加報告があり、全国大会の授業や具体的な運営の様子を知ることができた。福島大会に向けて参考となるものだった。

岩谷先生の講演では、社会科の歴史を踏まえながら、新学習指導要領が目指す社会科の授業について学ぶことができた。その中で、課題追究的な学習や学習内容の構造化・焦点化については、今までも大切にしてきたものであり、社会科教員として不易な部分であると感じた。

岩谷先生からは、全中社福島大会が開かれる2026年（令和8年）は、東日本大震災から15年の節目となるとのお話をいただき、改めて、福島県で全国大会を開催する意義を確認することができた。



〈大木研究部長による質問〉



〈篠田会長のあいさつ〉



〈参加者〉